

第五三師団通信隊略歴

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|-----------------------------------|---|-----|-------|------|------------|-----|---------|-----|----------|------|-----------------------------------|------|----|------|---------------------------------------|------------|--|--|--|--|
| 月日 | 区分 | 行 | 動 | 概 | 見 | 参加兵力 | 摘 | 要 | | | | | | | | | | | | | |
| | | <p>一 第五十三師団通信隊の編成完結日及編成地左の如し</p> <table border="1"> <tr> <td>編成完結日</td> <td>編成地</td> <td>摘</td> <td>要</td> </tr> <tr> <td>昭二六・〇・四</td> <td>京都</td> <td>中部第四十二部隊</td> <td></td> </tr> </table> | | 編成完結日 | 編成地 | 摘 | 要 | 昭二六・〇・四 | 京都 | 中部第四十二部隊 | | | | | | 昭二六、第三師団 編成下命 初代通信隊長 大針 葛西勇吉 | | | | | |
| 編成完結日 | 編成地 | 摘 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭二六・〇・四 | 京都 | 中部第四十二部隊 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <p>二 行動の概要</p> <p>一 師団は昭和十八年十二月二十五日南方艦軍の直轄となり、諸隊を南方に輸送す。初代通信隊は師団の第三梯団となり左の如し</p> <table border="1"> <tr> <td>編成完結日</td> <td>編成地</td> <td>摘</td> <td>要</td> </tr> <tr> <td>昭一八・一・九</td> <td>京都</td> <td>安第一〇三一部隊</td> <td></td> </tr> </table> | | 編成完結日 | 編成地 | 摘 | 要 | 昭一八・一・九 | 京都 | 安第一〇三一部隊 | | | | | | 昭一八、第三師団 動員下命 第代通信隊長 大針 金子三 | | | | | |
| 編成完結日 | 編成地 | 摘 | 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭一八・一・九 | 京都 | 安第一〇三一部隊 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <p>三 第三梯団</p> <table border="1"> <tr> <td>梯団区分</td> <td>編成部隊</td> <td>出発月日</td> <td>出発地</td> <td>上陸月日</td> <td>上陸地</td> <td>集結地</td> </tr> <tr> <td>第三梯団</td> <td>△ PTL (-11) 530 HLI 支 8D</td> <td>一九二六</td> <td>大阪</td> <td>一九二九</td> <td>昭南</td> <td>タラウ アール</td> </tr> </table> | | 梯団区分 | 編成部隊 | 出発月日 | 出発地 | 上陸月日 | 上陸地 | 集結地 | 第三梯団 | △ PTL (-11) 530 HLI 支 8D | 一九二六 | 大阪 | 一九二九 | 昭南 | タラウ アール | | | | |
| 梯団区分 | 編成部隊 | 出発月日 | 出発地 | 上陸月日 | 上陸地 | 集結地 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三梯団 | △ PTL (-11) 530 HLI 支 8D | 一九二六 | 大阪 | 一九二九 | 昭南 | タラウ アール | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--|---|
| <p>昭一九三、三七 自四月二十九日 至五月十三日 自五月十四日 至五月二十八日</p> | <p>師団の「ラングリン」附近前進に伴い通信隊は三月五日 「モール」・「クアラランフル」出發 四九馬恭回境 通過 四九恭回境 附近の戦斗「ホピン」通過し四、十三「シンタン」着 同地に於て「シツタン」河渡河点 防空警備に任ず、四六師団の「モール」附近の戦斗参加の為 附近の戦斗「モガウン」・「シツタン」發 「ピンウエ」着「モール」附近の戦斗に参加 「ミイトキナ」附近の戦斗「サーモ」本戦斗は師団の緒戦にして通信隊は有無線全力を以て通信連絡に任ず 附近の戦斗「モーハン」 師団は「ナムクイン」敵陣地攻事、通信隊は五月十六日 附近の戦斗、断作戦「モール」附近出發 「ホピン」に着、よ及第一線部隊間の通信連絡に任ず</p> |
| <p>自五月二十九日 至七月四日 五、八 自七月五日 至八月三十一日</p> | |
| <p>自九月一日 至十月四日 五、六</p> | |
| <p>自七月五日 至十月四日 五、九</p> | |

| 月日 | 区分 | 行 | 動 | 概 | 見 | 参加兵力 | 摘 | 要 |
|-----|----|--|---|---|---|------|---|---|
| 五二五 | | 頃師団は軍令に依り「ミツチナ」増援の為「ナムクイ」附近を北進 | | | | | | |
| 五二九 | | 頃「ミツチナ」南方五村 七一五橋梁附近に達す 通信隊は戦斗司令所と共に行動し、攻襲準備の通信連絡に任ず 師団は軍令に依り「モガウン」附近に於て後方連絡線確保の為陸地占領 | | | | | | |
| 六〇〇 | | 頃更に「サーモ」 「タウンニ」地区に転進 同地を占領、戦力の板復と敵印支路の打通妨害に任ず 此の間通信隊は有無線を以て連絡に任ず | | | | | | |
| 六〇六 | | 軍令に依り師団は「ピンボ」 「ホピン」附近に転進し持久を策すべく八月五日頃同地に到着、通信隊はとと共に行動し有線は主として既設線利用及無線を以て通信連絡に任ず、敵は鉄道線路に沿い攻襲の重点を指向し我損害漸く多し | | | | | | |
| 八〇十 | | 此の頃師団は「モ」 「ハン」附近に於て持久を命ぜられ頃より一部(28)を同地に転進陣地を構築せしめらる | | | | | | |

自十月五日
至一月十日
コーク附近の戦
斗報告

十一
五
十一
六

主力は逐次「ピンボ」附近の第一線より「ホピン」
「モーニン」「カド」の間に於て逐次抵抗しつつ、九
月十日頃「モーハン」に転進す。
此の間通信隊は敵の執拗なる通信妨害なるにも拘らず
転進間の通信連絡に遺憾なからしむ。
「ピンウエ」十月上旬以来「カーサー」附近に對する
敵の行動活発化するや師団は^戦を同地に急派し、我が
右翼方面を掩護せしめらる。
通信隊は^一ヶ分隊、^二ヶ分隊を配属通信連絡に任
ず。
頃以來師団は逐次「ピンウエ」附近に転進陣地を占領
し自主的持又す。
頃より戦斗更に激烈を極むるも死力を尽して之を拒止
しあり。
此の間通信隊は敵の激烈なる砲撃下 執拗なる妨害に
も拘らず能く通信連絡を確保す。
当時第十五軍は「インパール」戦線より転進中はして
師団当面の戦況は愈々重大なる影響を及ぼすべく師団

51

| 月日 | 区分 | 行 | 動 | 概 | 見 | 参加兵力 | 摘要 |
|----------------|----|---|---|---|---|------|----|
| 十一月二十五日 | 二五 | <p>は最後迄「ピンウエ」陣地の確保を期しあり。 頃師団は軍令に依り十一月二十八日より王カを「デマ イン」北側に集結 頃より十二月二十日迄の間に「イラワジ」河を渡河し 其後師団は数梯団となり、「イラワジ」河南側地区を 「マンタレー」に伺い南下し一月八日「マンタレー」 「キヤフセ」附近に集結す。 此の間通信隊は転進間の通信連絡に任ず 「イラワジ」 頃師団の「ミンター」附近戦斗参加の為「マンタレー」 発先づ「コツコ」次マ「ジゴン」附近に前進し師団司 令部（戦斗司令部）及第一線部隊並に第十五師団司令 部間の通信連絡に任ず。 師団は「キヤフセ」「ハミニボー」地区集結に伴い 「コツコ」発 「ハミニボー」着同地は於て師団集結間司令部及各部 隊間の通信連絡に任ず。</p> | | | | | |
| 自一月六日 至三月六日 | 一三 | | | | | | |
| | 二七 | | | | | | |

| | |
|-----|---|
| 三三 | <p>師団は軍令に依り「ミオザ」附近に前進。通信隊は戦 斗司令所と共に「タンレド」次で「マテゴン」附近に 前進し、戦斗司令所及第一線部隊並に烈兵団司令部間 の通信連絡に任ず。</p> |
| 三二四 | <p>師団は「パコック」方面よりの敵を阻止、毒滅すべく「 タウンター」附近に転進。通信隊は二月二十六日「マ チビンデー」(「タウンター」東北方四料)附近に到着 師団司令部及隷下各部隊間を有線全力を以て通信連 絡に任ず。</p> |
| 三二六 | <p>此の間敵の執拗なる通信妨害にも拘らず其の都度之を 排除し重要な通信連絡に遺憾なからしむ。 師団は軍令に依り転進を開始し「マライン」を経て四 月六日「マナウン」に達す。此の間通信隊は主として 無線を以て転進間の通信連絡に任ず。</p> |
| 四八 | <p>「マナウン」に於ける師団の敵戦車阻止成功せず。通 信隊は有線小隊の番材及若干の人員に損害を受く。 其後再び転進を開始し、四月三十一日朝「ピンナマ 」に達す。此の間無線を以て転進間の通信連絡に任ず。</p> |

| 月日 | 区分 | 行 | 動 | 概 | 見 | 参加兵力 | 摘 | 要 |
|----|-----|---|---|---|---|------|---|---|
| | 四二一 | 朝 | 朝 | 朝 | 朝 | | | |
| | 二二 | 夜 | 夜 | 夜 | 夜 | | | |
| | 二四 | ト | ト | ト | ト | | | |
| | 二六 | ト | ト | ト | ト | | | |
| | 二九 | 軍 | 軍 | 軍 | 軍 | | | |
| | 五八 | 此 | 此 | 此 | 此 | | | |

其後師団は左の如く転進し、通信隊は師団司令部と共に行動し、無線を以て司令部及各部隊、並に軍司令部隣接兵団間の通信連絡に任ず。

左記

四二一 朝、ピンナマシ占領

二二 夜転進

二四 ト、イエ、附近に於て、シンタン、河渡河

二六 ト、トン、グ、東北地方地区に集結、シンタン、河左岸を確保す。

二九 軍命令に依り、シンタン、河左岸を南下

五八 師団は、シエ、エ、シン、を次で五月十九日、カイ、ウ、エ、附近に達し、陣地を占領す。

此の間通信隊は師団司令部と共に行動し、五月十九日以降、ウ、イン、ガン、師団司令部及第一線各部隊間の有無線連絡に任ず。

此の間各種現地材料の利用創意工夫、且又二期最中に

| | | | |
|-----------------|---|-------------------------------|--|
| <p>第五三師團通信隊</p> | <p>固有部隊名 通信隊 森第1032部隊</p> | <p>部隊名対照 隊長名 金子部隊</p> | |
| <p>九三三</p> | <p>通信器材を連合軍に引渡す。</p> | | |
| <p>八一五</p> | <p>も拘らず重要な通信連絡に遺憾なからしむ。大命に依り戦斗を中止し、其後も各部隊間の通信連絡の任に服す。</p> | | |

~55~

1764

1764

ト

ホ

ニ
シ
ス
ニ

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

562

1765

六上旬

大なる戦果を挙げ連隊の栄誉を輝かせり。
「モガウン」に「ミイトキーナ」の戦斗
此の頃菊兵团方面の戦況急を告げ、連隊は之が救援の為直ちに「モガウン」地区に向い急進

同地附近に集結す

師団は主力を以て「ミイトキーナ」の敵を攻撃するに決し連隊は菊兵团の右側背を援護すべき命を受け、六月上旬「モガウン」及同地方地区に陣地を占領す。更に龍兵团に配属せられたるヤニ大隊は配属を解かれ追及せらるも師団主力と共に「ミイトキーナ」に前進す、然るに六月中旬頃より「モガウン」地区に対する敵の行動は頻に活発化し優勢なる空挺部隊と「菊」方面より激進侵透に命令に依り「ミイトキーナ」攻撃を中止し反転するに到り之に伴い「ヤニ大隊」並に連隊に復帰し力斗之努め敵を拒止しありたるも敵の圧迫は強烈にして「菊」兵团の転進援護の任終了せる後、命令により七月八日頃「ナンバタング」に「トツプ」の線に転進、同地附近に陣地を占領し戦力の恢復及敵の交通妨害に任し、敵と対峙するに至れり。

「モガウン」以来雨期における悪天候と数回の戦斗に依り損害逐次増加し兵力の過半数を失うに到れるも将兵の意気尚軒昂たるものあり。

| 年月日 | 概 要 |
|----------|--|
| 昭 五八ハ | <p>断レ作戰</p> <p>當時ビルマ方面軍全般の状況に鑑み師団は当方面に於て逐次抵抗に依る待久を策するに決した</p> <p>連隊は「ナンバタンク」の線を転進し雨期の悪天候を冒しつつ九月上旬「モーハン」地区に集結し該地附近に陣地を占領</p> <p>師団は「ピンボウ」「モーニン」の線に於て逐次抵抗しつつ部隊を集結中なり</p> <p>敵は我が陣地正面に出没するに到り真面目なる攻具を加え来る、各部隊力斗し都度之を開始す</p> <p>九三一</p> <p>「パーパン」附近に於て最後の反撃を加え玉砕を決意し陣地を占領す、十一月一日頃より逐次敵は我が陣地前面に進出し漸々有力なる部隊を以て挺進奇襲之を反撃せしめ敵の進出を阻止しありたるも遂に陣地を撤し「ピンウエ」に後退し師団の企画に基く陣地配備に就く師団長は現配備を以て決戦を企画しありて連隊は全力を以て「ピンウエ」西北方地区より「パーパン」方向に敵背後に對し強烈極まりなき反撃を敢行、敵の心胆を寒からしめたり、然れ共敵の攻撃は愈々急にして全く文字通りの激烈を展開特に浅野部隊正面の戦斗は熾烈なり、</p> <p>「盤」作戰</p> <p>此の頃「インパール」方面の戦況に鑑み能く近現在地点を固守し敵を撃退すべ</p> |

1767

| | |
|--------|---|
| 一三三 | <p>兵団の方針に基き連隊全力を以て更に強烈なる進反撃を加へ敵を震駭せしめつゝありし</p> |
| 一三八 | <p>命令により転進を開始す</p> |
| 一三二 | <p>連隊長陸軍大佐コピンウエ、南方に於て戦死せらる</p> |
| 一三八 | <p>連隊長陸軍大佐菊地芳之助着任す</p> |
| 三、中 | <p>遂次命令により転進を開始し、コイラワジレ河を渡河、コシングレーレを経、コマンダレーレに集結を完了す</p> |
| 二〇、二一。 | <p>連隊は弓兵団(31D)に配属せられ自動車輸送により移動、コミンギヤンレ附近に於てコイラワジレ河畔陣地構築に任す</p> |
| 一、中 | <p>コイラワジレ河畔及コマイクテラレ附近の作戦</p> |
| 一、中 | <p>兵団は軍の戦術機動予備兵団として、コマイクテラレ附近に集結中なり</p> |
| 一、中 | <p>コマンダレーレ北方、コシングレーレ地区に対する敵の圧迫急となりしため、奈及兵団を以て該方面に対し攻勢を採り、敵の企画を撃破するに決せられ、遂次同方面に集結せしめらる</p> |
| 一、中 | <p>連隊は、コミンギヤンレ附近において陣地構築及战斗中なりしが、急転移動を開始す</p> |
| 一三三 | <p>コッコウレに到着、兵団に復帰し、渡河前進せる敵に対し、オニ大隊を以て、コクレレ高地を、オニ大隊を以て、コイエシンレ高地を攻撃せしめ、主力は兵</p> |

| 年月日 | 概 要 |
|-------------------|---|
| 昭 三〇 三三 | <p>団予備隊として「ミンガン」にありて战斗中 命令により配備を交代しオミ大隊を残留し、主力は「キヤウセ」附近に移動集結せり</p> |
| 二一四 二二〇 | <p>此の頃「イラワジ」河畔「ミンム」正面に於ける敵の行動活発化し渡河攻撃に 乗る公算極めて大となりしため対処すべく兵団は同方面に前進を命ぜられる 連隊は自動車輸送を以て「ミヨサ」地区前進せり 「ミンム」西方地区の戦況に鑑み烈(33P)兵団配属となり「イワボ」附近に前進 し戦斗に加入し渡河せる敵を攻撃し多大の戦果を収め敵の前進を拒止しありた り 烈兵団は「メイクテ」ラ「作戦を遂行せしむるため現「イラワジ」河畔陣 地を固守し敵の前進を拒止して昆集団の作戦を容易ならしむるに決し連隊亦 「イワボ」附近に於てオミ大隊を復帰せしめられ優勢なる敵に対し旬日に亘り その攻撃を拒止撃退しあり</p> |
| 三三八 三三〇 三三八 | <p>各方面遂次突破せられ連隊亦止むなく命令に依り同地附近を撤する オミ大隊を残留し遂次転進す 「キヤウセ」南方に到着同地附近に陣地を占領す 当時兵団主力は「タウンタ 方面」にあり突破しまたれる敵機甲兵団と激戦中なり 連隊は依然烈兵団配属として「キヤウセ」南方地区に陣地を占領し「ミヨサ」</p> |

の 外

ビ ル マ 2

1769

- 三三。 ヲハミンポーレ方面にも激現出し表れる等全般的状況に依り
 転進を開始 ヲボンゲインレ附近に於て烈兵団の撤退援護をなしたる後
- 四五。 ヲナグーレ附近に集結す
 ヲシヤンレ州及 ヲマングレーレ沿線克作戦
- 四六。 連隊は烈兵団の指揮を脱し ヲ昆レ集団長の指揮に入らしめられ ヲザジレ東方地
 区に前進すべき命を受けたるも水道沿線は既に敵のため行動容易ならざしめた
 め ヲシヤンレ山脈中の山道を縫走するに決す
- 四七。 ヲナグーレを経る転進を開始す
- 四一四。 ヲカローレ街道 ヲインマビンレに到着 直ちに同付近に於てオニ輸送司令官の
 指揮に入り ヲカローレ街道隘路に陣地を占領し 諸部隊の転進を援護した
- 四三。 追尾する敵に反撃を加えつ 逐次 ヲカローレ街道上を転進す
- 五二。 任務を「艦」兵団と交代し ヲカローレに集結せり
 連隊は新たにビルマ方面軍司令官の指揮下に入るべく ヲタトンレに向い前進す
 べき命令あり
- 五七。 ヲカローレ出発へ SP153A の各一部属 ヲシヤンレ山系を縦断し 適なき道の幾多
 の困難を排除しつつ ヲケマピユールを経る前進
- 六四。 ヲバアンレに於て兵団に復帰すべき命を受く

| 年月日 | 概 要 |
|------------------------|--|
| 昭 二〇 六 二 四 | <p>コシツタンレ会戦</p> <p>当時コラングーンレは敵手に陥り兵団はコシツタンレ河畔に於て敵と対峙しあり。</p> <p>連隊は急遽兵団に復帰すべく直ちに行動を開始</p> <p>コウインガンレに到着。兵団に復帰し兵団の右翼隊となりコサロッキーレに陣領し同地附近の警備に任せり。</p> |
| 七 一 | <p>爾後策集団の歴史的大転進を援護すべく実施せられたるコミツチヨウレ攻撃に</p> |
| 七 八 | <p>方りてはコシツタンレを渡河し大湿地帯中に幾多の困難を冒し</p> |
| 七 一〇 | <p>遂にコミツチヨウレを攻略せるも連隊長菊池大佐爆撃により戦死せらる。</p> |
| 八 一 五 | <p>命令により配備を交代しコシツタンレ河岸に一部を残置コザロッキーレ附近に</p> <p>帰還爾後コシツタンレ河畔に於て策集団の転進掩護す。</p> <p>掩護中 大命に依り戦行動を停止す。</p> |

1771

9
9
K
ビルマ 2

| | |
|---------|---|
| 昭一六、一〇一 | 歩兵第百五十一連隊略歴 |
| 一〇五 | 第五十一師団編成下令 |
| 二、三二 | 歩兵第百五十一連隊編成完結 |
| | 軍旗親授さる。 |
| | 編成地 三重県一志郡久居町 |
| | 通称号 中部隊三十八部隊 |
| 一三八 | 連隊長 陸軍大佐 橋本熊五郎 |
| | 大東亜戦争開始以降師団は中部軍司令の指揮下に入らしめられ師団区の防衛並に教育訓練に任ず |
| 昭一八、二二七 | 臨時動員下令 |
| 一三三 | 動員完結 |
| | 通称号 安隊一〇〇二二部隊 |
| | 連隊長 陸軍大佐 橋本熊五郎 |
| 一八、三三四 | 育訓練を実施す |
| 一九、三三四 | 南方方面に出動のため千種廠舎出発 |
| 三六 | 連隊は師団の第五次輸送部隊として摩耶山丸、神川丸に乗船宇品出帆 |
| 四一六 | 昭南港上陸 |

1772

| 年月日 | 概要 |
|----------------|--|
| 昭五、四、二 | 師団命令に基き輸送準備を整之逐次（I、II、III）鉄道輸送に依り萊國に前進す |
| 五、一 | 「マンダレー」到着師団は第三十三軍の指揮下に在リ「モートル」附近の敵空挺部隊を攻撃中にして右戦斗に加入すべく先着せる第一大隊を「モートル」に急進せしむ |
| 自五、一六 至八、二八 | 連隊主カ「モートル」に到着するや軍命により第一大隊を除く主力は目下「インパール」攻撃中の第十五軍の指揮下に入らしめられ反転してイエウに集結、爾後自動車輸送に依リ「カレワ」「デーテム」を経て「ヂユラチヤンドプール」に前進す |
| 六、八 | 連隊長軍旗を奉し約二〇名「ヂユラチヤンドプール」に到着せるも雨期の為主カの前進遅延す |
| 六、九 | 軍命令により第三十三師団長の指揮下に入らしめられインパール西方△五八四六高地の攻撃を命ぜらる。 |
| 六、二二 | 同高地を奪取せるも歩砲隊連合の猛逆襲に依り同日二十七日同高地を撤退「ライナマイ」に於て後縦兵力を掌握、爾後の戦斗を準備す。 |
| 七、五 | 軍は「インパール」攻堅を断念し、七月八日より転進を開始す。 |
| 八、二六 | 軍命令に依り一大隊（第二大隊）を残置し、速に「インドウ」に至り原折處に |

復讐の命令を受け、インドウレに伺ひ転進す。

此の間第一大隊は師団直轄となり、モールレの空挺部隊を攻撃、ナムクインレ、ホピンレに追撃、之を潰滅し更に北上、ミッキナ、菊部隊の速出作戦に任じ、モガウンレ、サモレ、タウニンレ地区に於て後方連絡線を確保し、第八師団救出作戦を続行す。

七、三六 第十八師団と第一線を交代し、ピンボレ、ホピンレに転進持久を策し、逐次、モールハンレに転進す。

爾後連隊は主力を、インドウレに集結、隨時出動し得る態勢に在りて待機す。

一〇、三六 第二大隊復讐す。此の間第一、二次補充員

自、一〇、一 時恰も雨期明けとなり、敵は空軍支援の下に、モールレ地方より鉄道沿線に沿い、至、三〇、一〇 南下其の突進急なり。

依て師団は、ピンウエ、オークトウレの線に於て自主的に之を拒止すべく決し、連隊は、オークトウレの要点占領

一、二、一 その為、ポソホンレ、オークトウレ間主要道路を縦長に陣地占領をなし、約一カ月、克く此の敵を拒止し、第十五軍の、インパールレ転進を援護す。

一、三、三 此の間第一大隊は師団直轄とし、マカーサレ地区隊となり戦闘す。

一、三、三 コメレーレに於て復讐す。

師団命令に基き、現陣地を撤し、メザレ河を経て、イラワチレ河右岸を南下し、

| 年月日 | 概 要 |
|-----------------------------------|--|
| 自昭 三〇、一、二 三三、六 一三、三 至 | コタドウレに集結し烈兵団の指揮に入る。 コイラワチレ河決戦三号作戦地区正面に敵の渡河企画濃厚となる。 コタドウレ出發兵力を集結し祭兵団と共に戦斗せしが攻撃意の如くならず遂に敵は渡河す。 |
| 二下 | 二号作戦地区の渡河企画濃厚となるや軍の機動予備兵団となる。 |
| 二下 | 二号地区待機中、一号地区「バエツク」方面より大機甲部隊の渡河企画濃厚となり同方面に進攻「タウンター」附近に於て渡河せる敵を拒止す。 |
| 三、四 | 比の間△六七六高地は歩戦砲兵連合の優勢なる敵の攻撃を受く。全員奮戦せしが、遂に梶谷中隊(約三十名)を殲す。 |
| 三、三六 | 夜、師団命令に基き敵の重圍下を転進 |
| 四七 | コヤナウンレに到着 同地に陣地を占領「マンダレ」街道の転進を援護す。 |
| 四八 | 優勢なる敵機甲部隊の攻撃を受け、やむなく転進南下せり。 |
| 八二五 | 爾後逐次抵抗しつつ「ピンマナ」附近より「シツタン」河左岸に転進「シツタン」作戦に参加す。 |
| 九三〇 | 大語を拝し終戦となる。 |
| 三三七 | 「バエジ」ラングーン附近に在りて突撃作業に従事 復員完結 |

| | |
|----------|-----------------------------|
| 昭二六、一〇、四 | 搜索第五十三連隊部隊略歴 |
| | 部隊編成完結（編成下令昭二六、一〇、一） |
| | 編成地 京都 中部隊三十九部隊 |
| | 連隊長 陸軍中佐 梁 瀨 恭 |
| 八三、一 | 下令 完結十二月一〇日 |
| | 編成地 京都 |
| | 固有名称 搜索第五十三連隊 |
| | 通称号 森一〇〇二四部隊 |
| | 隊長名 奥仲部隊（自一八、一三、一 至二〇、一一、三） |
| | 首藤部隊（自二〇、一九 至現在） |
| 一九三、三三 | 京都出発 |
| 三三七 | 宇品港出帆 |
| 四二六 | 昭南島上陸 |
| 五、六 | 昭南島出帆 |
| 五、三 | 西貢上陸 |
| 五、三 | 泰仏印國境通過 |
| 六、八 | 泰緬國境通過 |
| 六、三 | 暹町（緬支國境）通過 |

| 年月日 | 概 | 要 |
|-------|---|---------------------|
| 昭一九六三 | 芒市着 | |
| 六三三 | 第二次怒江反惠減作戦に参加 猛昌街に進出す | を併し指揮し潯陵北方高地より滇緬公路を |
| 七三 | 右作戦終了芒市に集結 | |
| 七五 | 丸山部隊撤退援護の命を受け芒市出発 | 曉町「ナンカン」を経て |
| 七二〇 | 「バトモ」着 | |
| 七三七 | 「ミヨヂツト」出発 | 「ミイトキイナ」に向け前進 |
| 八二 | 「ナムサンヤ」「カントオパン」附近に於て敵前進部隊の一部に遭遇、之を撃退せるも道路の荒蕪に補給の困難を伴ひ同地附近に進撃を準備中、丸山部隊長命令に基き、丸山部隊收容すべく「ナロン」に転進 | |
| 九三 | 「ナロン」に於て同部隊を收容す | |
| 九一〇 | 「バトモ」出発 | |
| 九一六 | 「クツカイ」着、同日より「クツカイ」警備に任ず | |
| 三三三 | 「クツカイ」出発 | |
| 三三三 | 「ラシオ」着、同地附近の警備に任ず | |
| 三三三 | 「モンヨウ」附近敵遊撃隊の討伐に任ず | |
| 二〇一八 | 「ラシオ」出発 | |

ルの列

ヒルマ

| | |
|-----|---|
| 三〇一 | コマングレーレ着 SPD (安)に復帰 |
| 二〇二 | コイラワデレ河畔並コメークテイラレ附近会戦に参加 |
| 三〇六 | コマダヤレを経マコエシンレ北方高地を占領 敵と交戦中 |
| 二〇四 | BD (寮)と陣地配備を交代(ミンユンラインレに策定 次期戦斗を準備す) |
| 二〇二 | 同地出發 コレパンジャンレに在リて警備 |
| 二〇三 | 同地を撤し コミンチャンレを経マ |
| 二〇四 | コタウンタル北方に進出 直ぐに本道上△一三六三高地附近を占領す |
| 三〇一 | 同地出發 コミンチャンレを経マ コマラインレ(一部を以マコパイソレ)に転進 同地を占領 |
| 三〇三 | コマラインレを撤し コサベゴンレを経マ |
| 四〇七 | チピンレ(コヤナウンレ北方ハ科)に転進 南下の敵戦車と交戦す |
| 四〇九 | コマジジンレ(コシンデレ河一線)を占領 |
| 四〇四 | コイエレ附近に於マコシツタンレ河渡河 |
| 四二六 | コトングレ東北海区に於マDに合流 コシツタンレ河左岸を南下し |
| 五〇八 | コチンモパリンレ(コシエジンレ北方)に於マ撤退掩護 |
| 五〇四 | 同地出發 |

22

野砲兵第五十三連隊

一八三三

編成完結

編成地 京都野砲兵第五十三連隊

第一大隊(大隊長有馬中佐)は門司出帆 上海西貢盤谷を經由

一三三八

「ピルマペグー」に到着 次いで北緬「モール」附近に向い前進す

一九四一六

連隊(第一大隊及第三大隊)へ第七中隊を欠き第六中隊を加う(欠)は宇品出帆

四一六

昭南に上陸 ビルマ作戦地に向い前進す 連隊長高見大佐は第一大隊の戦斗指導の為、飛行機により追来す

八一八

第三大隊(大隊長川少佐) 第七中隊を欠き第六中隊を加う(欠)は内地出帆、ビルマに追来中比島沖に於て敵のため遭難し比島派遣軍の隷下に入る

四三九

モール附近の戦斗

五二四

第一大隊(第三中隊欠)は連隊長の指揮に入り「モール」附近の戦斗に参加す 本ピン附近の戦斗

五三八

連隊長は高射砲中、高射機関銃一中 併せ指揮し「本ピン」北方地区に陣地を占領し第一二八の戦斗に協同す 又高見支隊(長、高見大佐 1/2) LA (23) 見一中

五三九

S一部は「ナンモン」を攻撃す 「モグウン」「ミイトキイナ」附近の戦斗

七四

| 年月日 | 概 |
|--------------|--|
| 昭一九六三 | <p>砲兵隊へ長、高見大佐 LA 5H 一中 3A 一中へ「ミットキナー」攻軍請準備を完了せるも情況の急変により「モガウン」附近に向い転進を開始す。</p> <p>師団は「モガウン」西方及南方地区に態勢を整え支那遠征軍を激撃す。</p> <p>隊長は第三中隊の原所屬復帰と共に「モガウン」附近の敵に甚大なる損害を与えたるも第三中隊火砲一門は優勢なる敵迫軍砲の集中を浴び遂に破壊せらる。</p> <p>連隊長は後方の陣地偵察を命せられ東部「パボフ」南方四軒附近待機中敵の爆撃を蒙り頭部及左踵部に破片剣を受け野戦病院へ(寮二)に入院す。</p> |
| 自 八七 三 | <p>断作戦</p> <p>連隊は七月上旬「タウニ」北方地区に陣地を占領し敵の前進を拒止せるも同月下旬に至り、戦場急迫し「ホピン」附近に向い専進を開始す。</p> |
| 八四 | <p>新連隊長横田中佐「タウニ」に到着し部隊の専進を指揮す。</p> <p>第二大隊及連隊本部の残部は七月下旬以降第一大隊の「サーモ」附近の戦斗並に専進を援護し九月上旬連隊は「モーハン」附近に集結す。</p> |
| 九下 | <p>連隊は「モーハン」地区に陣地を占領し敵攻撃の準備を為せしむ「ピンウエ」附近に転進を命せられる。</p> |
| 一〇中 | <p>集結を完了す。</p> |

| | |
|----------------------------------|--|
| 昭二〇一 中 自一九一〇 五 至二〇一〇 | <p>穿田中隊、六月上旬雲南省に派遣せられ龍兵団に配屬龍陵芒市附近に於て優勢なる敵と戦斗し砲兵の威力を發揮せるも火炮一門は敵砲彈の集中蒙り破壊せられる。原隊復帰。</p> <p>盤作戦</p> <p>連隊は臨時野砲中隊を編成し尔余は第二大隊長渡辺少佐の指揮を以て重材料及弾藥の後方(マンダレー附近)へ転送に任ず。当時悪天候下「マリア」の猖獗を極め人員の消耗甚だしく各歩兵部隊より各五十名計百五十名の配屬を受け五十名を以て重材料を輸送す。</p> <p>ピンウ工附近の戦斗</p> <p>連隊長横田大佐は大隊長有馬中佐中隊長伊藤中尉を指揮し野砲一門を以て約一カ月に亘り克く歩兵の戦斗に協同し中隊長戦死するも砲兵の本領を余すところなく發揮し師団長より賞司を受く。</p> <p>連隊は転進の命を受け先ず「ナバ」に前進し敵の出軍を拒止。</p> <p>次いで兵団の「マンダレー」集結の為「デジャイン」より水路「イラワヂ」河を下航し「シングレー」に於て師団の重材料彈藥等を収容。</p> <p>「マンダレー」南方「アマラプラ」に集結。</p> <p>イラワジ河畔及「メノクテラ」附近の会戦</p> <p>「シングレー」附近の戦斗</p> |
| 二〇一六 | <p>二、下</p> <p>三、上</p> |
| 自二〇一〇 至二〇一五 | <p>五、一〇、五</p> <p>二、三〇</p> |

| 年月日 | 概要 |
|-------|--|
| 昭二〇一〇 | <p>イラワジ河畔の風雲急を告げ連隊は連隊長の指揮を以て自動車により、シングー附近に急行。シングー東側に陣地を占領し十五榴中隊を併せ指揮し左配兵隊となり敵の渡河を拒止す。</p> |
| ニ上 | <p>アメリカテララ北方地区守備の為、シングー附近の戦線を撤し再びアマラプラに集結引続き、イワシエに集結。尔後の行動を準備す。</p> |
| ニ一四 | <p>「ミンム」正面烈国の戦斗に協力の任務を以て連隊は急遽、イワシエを出發自動車により先ず「ミヨサ」に向じ前進、連隊長第二大隊（第四中隊欠）を指揮して「ガズン」正面の敵を制す。</p> |
| ニ三四 | <p>第一大隊（第四中隊を加う）は「ガンホウ」及「ガズン」正面の対戦車戦斗に俾効を奏し破壊擱控せしむるもの一數輛に達す。</p> |
| ニ三八 | <p>「タウンタ」附近の戦斗 連隊長は第二大隊（本部と第七中隊）及配屬せられたる十加中隊、十五榴中隊、青葉十榴中隊九〇野砲中隊等を指揮し「タウンタ」附近に於て、敵機械化部隊の「メークテラ」附近への進出を拒止し、克く敵戦車を擱控、炎上、破壊し、日余に亘り其の任務を全うす。然し「ミンギヤン」方面より専進せる優勢なる敵戦車部隊の包围を受け十榴には破壊せられたるも幸して一門を相立て、残弾尽きる迄戦斗し中隊長大森中尉は砲と共に壮烈なる戦死を遂げ、第三十三軍司令</p> |

2
カ
内

ピ
ン
マ
2

| | |
|---|------------|
| <p>官本多中将は比の第七中隊に対し感状を授与せられ親しく心上岗に達す。 「ピンウエ」 「シンダレー」 「タウンタ」 附近にて奮戦せる連隊に対し師団長より賞詞を受く。</p> | <p>三、元</p> |
| <p>「シヤン」 州 「マングレー」 延線方面宛作戦 連隊は四月上旬「ヤナウン」 附近に転進該地区を占領し敵の前進を拒止す、次いで「ピンマナ」 にマ山砲一門を受領し「シツタン」 方面に向い転進、五月中旬「ウイングン」 附近を警備す。</p> | <p>五、四</p> |
| <p>第一大隊は烈兵団に配属のまま「ギヤウセ」 北方「ニヤングエ」 附近に転進、陣地を占領し敵の前進を拒止。</p> | <p>三、四</p> |
| <p>「カロー」 に集結</p> | <p>四、三</p> |
| <p>「シツタン」 作戦</p> | <p>五、五</p> |
| <p>連隊は附近を占領し「シツタン」 右岸渡河部隊に協力、敵を水際に襲滅し諸準備を整え且、師団の情報蒐集に任ず。</p> | <p>五、二</p> |
| <p>第五十五師団の山砲中隊を併せ指揮し「ミイチヨ」 攻襲並に「ミイチヨ」 附近の肅清に努めし策集団の「シツタン」 渡河転進を援護す。</p> | <p>八、五</p> |
| <p>終戦</p> | <p>八、五</p> |

| 年月日 | 概要 |
|---------|---|
| 昭三〇、五、六 | <p>第一大隊は「カロー」より「ケマピユ」に向い前進。次いで状況の変化により「モ子」道三十二哩道標附近に陣地を占領し所在の九〇野砲一、十五榴一、山砲一を併せ指揮し集成。砲兵隊となり林集団の戦いに協同す。</p> |
| 七、五 | <p>「ケマピユ」附近に転進。火砲は吉田大尉の指揮を以て「タイ」園「チエンマ</p> |
| 八、九 | <p>イ」に向い転進。本部は大隊長の指揮を以て同地出發。</p> |
| 九、一 | <p>「ムドン」に至り。</p> |
| 昭三二、三、八 | <p>連隊長の指揮下に服す。</p> |

要

3
カ
カ

ビル
マ
2

| 年月日 | 概 | 要 |
|---------|-----------------------------------|------------------------------------|
| 昭五、三、一六 | 連隊主力は西貢に集結完了 | 第二中隊より逐次昭南に向い前進し第一中隊を除き先づ盤谷に集結 |
| 三、二七 | 師団は蘭貢附近に前進を命ぜられ鉄道輸送に依り逐次ビルマに向い前進す | 連隊は第一中隊及第一中隊主力は以て昭南に於て自動車及馬匹を受領せしめ |
| 三、一六 | 師団の転送に伴い兵器資材の後送に任じ逐次南下しコマンダレーに集結す | 師団は単令に依りコソコル附近の戦斗に参加、連隊主力はコソコルに |
| | 北上しコマンダレーに位置し次期作戦準備並に兵団残置貨物の後送に任ず | コソコル間の第一線補給に任ず、第一中隊は |
| | コソコルに位置し次期作戦準備並に兵団残置貨物の後送に任ず | |

| 出発年月日 | 梯団区分 | 編 | 成 | 出港地 | 上陸月日 | 上陸地 | 集結地 |
|---------|------|----------------------------|---|-----|--------|-----|-----|
| 昭五、三、一〇 | 第二梯団 | 第一中隊主力 中隊長以下 三四六名 | | 上海 | 昭五、三、一 | 西貢 | |
| 五、三、二六 | 第三梯団 | 連隊本部及第三中隊 連隊長以下 一五四名 | | 上海 | 五、三、二四 | 西貢 | |

| | |
|-----|--|
| 三二八 | <p>「イラワジ」河畔並「メイクテイラー」附近の合戦 軍命令に依り師団「ハーミンホー」地区に集結</p> |
| 三二〇 | <p>戦況激変に伴い「サヨサ」附近への兵力殫瘁、輸送並に同地 弾薬交付所を開 設交付に任ず</p> |
| 三二〇 | <p>第二中隊は穿二輸送司令部に配属メイクテイラー附近の集結地輸送に任ず</p> |
| 三二四 | <p>師団命令に依り臨時歩兵中隊編成下令</p> |
| 三二六 | <p>編成完結、同日兵団直轄となり「タウンター」戦斗司令所に至る</p> |
| 三二六 | <p>連隊は戦斗の推移に伴い「ナトギー」に前進し「キヤウセ」——「タウンター」 集結及穿一線補給に任ず</p> |
| 三二六 | <p>「ミヨラ」を突破せる敵機甲部隊一部「ナトギー」東方二十杆の地点に現出 同日夜間行動中穿三中隊等二分隊長以下六車輛の自動貨車を奇襲焼失す 連隊長主力は「ナトジー」より「オホンドウ」に前進し引籠り第一源補給に任 ず</p> |
| 三二九 | <p>克 作 戦 兵団は穿三十三軍の指揮下に入らしめらる。 連隊は兵団車輛部隊を併せ指揮し「ヤメセン」に向い南進す 「ヤナウン」附近に於て軍並に兵団は敵機甲部隊の奇襲に依り所在不明となり 連絡出来得ず</p> |

~17~

| 年月日 | 概 | 要 |
|--------|--|---|
| 昭三。三。四 | 連隊は「ピンマナ」に到着兵団の所在捜索情報の蒐集に努むると共に兵団に交付せらるる火砲弾薬等の輸送保管に任ず | |
| 三。六 | 軍命令に依り「ピンマナ」防衛司令官として「ピンマナ」防衛陣地占領に任ず | |
| 四。二九 | 断作戦 | |
| 十。四 | 第一中隊主力(中隊長以下一〇七名)は歩兵第百三十八連隊に配属せられ「モール」附近に降下せる敵空挺部隊の攻撃に参加 | |
| 六。二 | 連隊主力は索餌圏境を陸路行軍に依りモールメン集結引続き「マングレー」に前進 | |
| 六。八 | 連隊長陸軍大佐川上不二夫「コラング」に、第百六兵站病院に於て戦病死す | |
| 六。二四 | 連隊主力はイラワジ河を渡河第一梯団(連隊本部及第一中隊)「ホピン」に向い急進す | |
| 六。三六 | 陸軍大佐緒方俊夫部隊長として着任す | |
| 六。元 | 連隊長「ナバ」に於て第一梯団に追及同日「ナバ」駅部落附近敵爆撃機救回の攻撃を受け第一中隊戦死者(兵一名)を出す | |
| 六。元 | 連隊本部は「タウニ」兵団戦斗に令所に到着 | |
| 六。元 | 尔後引続き着する第一中隊及配属部隊を指揮し「タウテ」——「ナムクイン」 | |

七、二五

間の兵器糧秣の前送及患者重材料の後送業務に任ず
第三中隊、軍命に依り集成自動車中隊を編成し独立自動車第六一大隊長、第一中隊、第二小隊は龍兵團輜重兵連隊長の指揮下に入り夫々「ラシオ」芒市に向い前進す到着に伴い芒市付近の作戦輸送
連隊主力は師団の転進に伴い中継輸送隊となり「モトハン」レ「カド」レ「モトル」の各地に位置し輸送業務に任ず

盤作戦

一〇、五

師団は第三十三軍の指揮下を脱し第十五軍の指揮下に入る
連隊主力は「インドウ」レ「オク」ト「オ」レ第一線補給及「ナバ」駅の荷役に任ず、第三中隊は自動車の補充を受け「エンドウ」レ「カーサー」レ「ピンウエ」への補給、患者の後送業務に任ず

一一、二九

連隊主力は「インドウ」レを撤し「クンバウン」レ「レ」レ「デジヤイン」レに転進、兵団との連絡なり、一部を指揮し弾薬糧秣の前送に任ず

三、二〇

第三中隊主力（品八）は兵器弾薬後送の為「ピンマナ」レ出発「トング」レに向い前進中「レウエ」レ附近に於て敵機甲部隊の奇襲を受け全撃焼失す

三、二二

兵団と共に「ピンマナ」レ脱出、「レットタン」レ河渡河、左岸地区を「トング」レ

~8/11

| 年月日 | 概要 |
|-------|--|
| 五、五、五 | <p>附近に南下 第一中隊は「マングレー」兵団貨物後送任にありしに敵甲部隊の南下に伴い兵団命令に依り河原敷匠少佐の指揮に入り「カロー」を経マ「サルウィン」河川「モールメン」に向い南下、第二中隊も「メークテラ」附近の戦後、第二輸送司令部の配属を解かれ第一中隊に合流南下す。</p> <p>シツタン作戦 兵団は「シツタン」河左岸「シエンジン」——「キヤウカラ」間陣地を占領し次期作戦を準備す。</p> |
| 五、二〇 | <p>兵団命令により「ピリン」に兵団後方連絡所を開設す。主力は「メヨンカレ」に位置し、「メヨンカレ」——「シビヨン」間の輸送補給に任ず。</p> |
| 五、三〇 | <p>第一兵団品五の配属を受け「ピリン」——「メヨンカレ」間輸送に任ず。策集団収容を命ぜられ連隊主力は配属部隊を指揮し「メヨンカレ」——「ジビヨ」間の大量集積輸送に任ず。</p> |
| 七、二 | <p>連隊主力の「ドンセイ」——「クンサイク」に前進。策集団収容糧秣被服衛生材料の集給輸送に任ず。</p> |
| 七、一七 | <p>第一中隊及第二中隊「ドンセイ」追求め復讐す。</p> |

14の内

ビルマ

| | |
|--|---|
| | 八二五 |
| | 集積輸送中大命に依り戦斗行動停止 引続き集積団収容輸送 九八 任務終了 |

~23~